

## 家づくりの要である住宅設計を考えてみよう（その7）

### ～ 融通性のある家 ～

#### 1 ライフスタイルの変化に対応できるように

住宅は長い間、使うものです。10年先、20年先、30年先にも対応できるようにしたいものです。その典型的な部屋が子供室です。子どもが小さい間は広いワンルームを用意して、小学校高学年ごろ、個室が必要になったころには簡単に区切れるようにすると良いと思います。また、子どもが巣立った後の使い方も考えておきたいものです。遠い将来にも対応できるようにするためには、リフォームのしやすさも大きく関係します。その点、日本の伝統的な工法である在来軸組工法は、耐力壁以外は容易に取り外すことができるので、リフォームしやすい工法と言えます。

#### 2 子供室は年齢によって変化

##### (1) 小学校低学年まで

大きな家具を置かず、広い遊び場にし、勉強はリビングなどでします。

##### (2) 小学校高学年

子供室に机、本棚、ベッドを配置します。個別化せず開放的なつくりにするとういでしょう。

##### (3) 中学生から

勉強と就寝のため、ある程度のプライバシーを確保します。

#### 3 部屋の簡単な区切り方

(1) 壁の代わりに本棚や家具で区切る方法。

(2) 取り外しの簡単な建具で区切る方法。

(3) 筋交いのある耐力壁ではなく、単なる壁で区切る方法。

#### 4 子供室のタイプ

##### (1) 個室万能タイプ

自分の部屋で勉強・遊び・睡眠など全ての行為ができるタイプ。

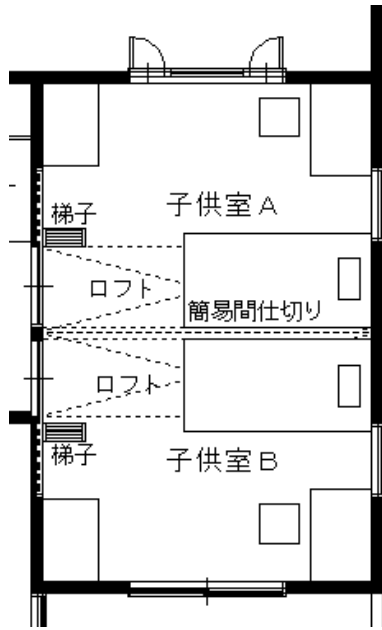
##### (2) 個室+パブリックスペースタイプ

個室を就寝だけの機能とし、勉強などの行為はリビングなどのコーナーを利用するタイプ。

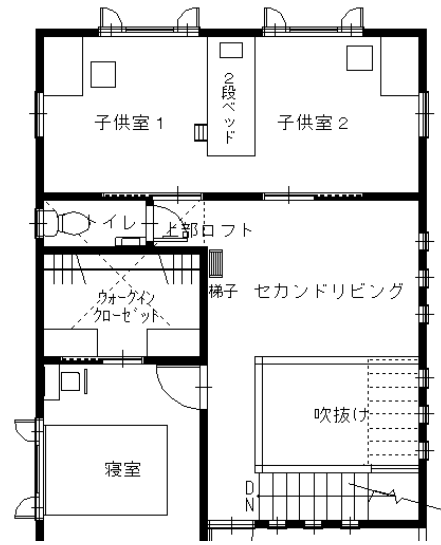
##### (3) 個室+プレイルーム

子どもが共同で使えるプレイルームを設け、その一角に勉強机を置き、ベッドのある個室は仕切って設けるタイプ。

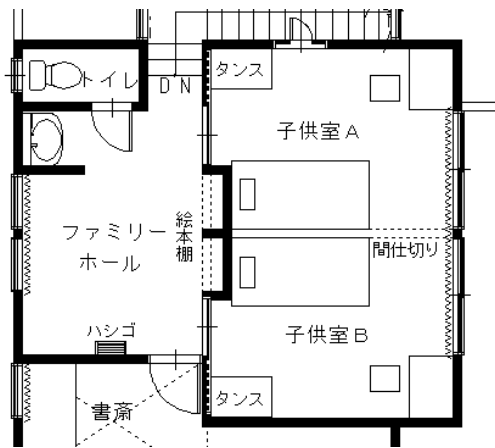
(4) 個室+ファミリースペース（家族が勉強や読書、遊びができるファミリースペースを設け、ベッドのある個室は仕切って設けるタイプ。



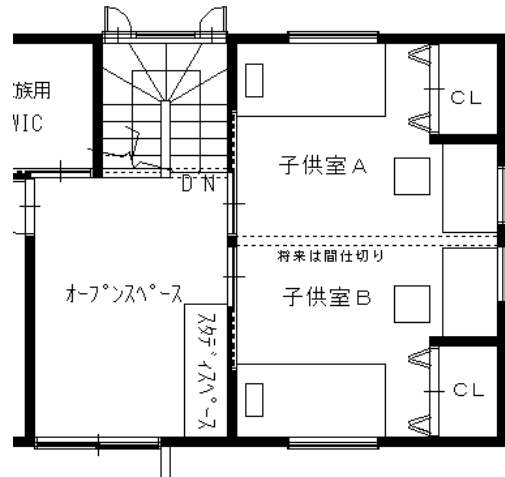
ロフト付き子供室



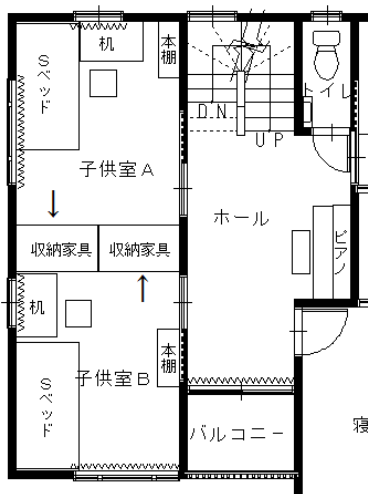
セカンドリビング+子供室



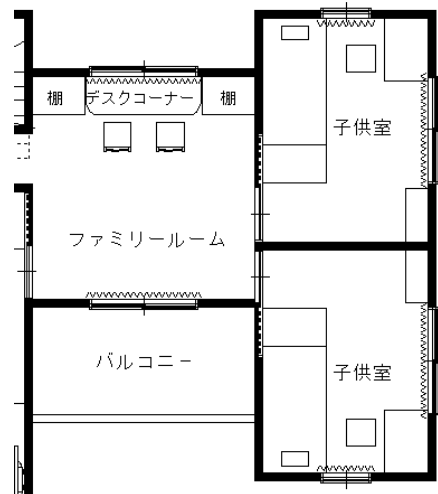
ファミリーホール+子供室



オープンスペース+子供室



ホール+子供室



ファミリールーム+子供室